



NISHI EYE HOSPITAL

西眼科だより 第11巻3号

(季刊誌)

2009年7月発行

編集責任者：倉橋美雪

Nishi Eye Hospital

西眼科病院 〒537-0025 大阪府大阪市東成区中道 4-14-26 TEL: 06-6981-1132

〈ホームページ〉<http://www.nishi-ganka.or.jp> 〈e-mail〉office@nishi-ganka.or.jp

二重焦点(遠近両用)眼内レンズ

☆**白内障**とは、目の中でレンズの役割をする組織【水晶体】が濁ることです。正常な水晶体はほぼ透明で必要な光を良く通します。しかし、加齢により水晶体が濁ると光が十分に通らなくなります。これが「白内障」です。☆**白内障手術**は、小さな切開創から、カプセル(水晶体嚢)一枚を残し、水晶体を超音波で破碎し除去します。水晶体は眼の中のレンズで、厚くなったり薄くなったりして距離に応じて物体像のピントを眼底に合わせる働きをしています。この水晶体が手術によって無くなるとピントが合わなくなってぼんやりとしか見えなくなります。そこで術後、水晶体に変わる矯正法が必要となります。それが「眼内レンズ」です。☆**眼内レンズ**で現在主流となっているのは、シリコンやアクリル系樹脂の柔らかい材質で作られた折りたたみ可能な眼内レンズです。小さな切開創から挿入できる利点があります。手術の時、本来水晶体のあった所に挿入固定されるので面倒な着脱の必要もなく、コンタクトレンズや眼鏡と比べ光学的にも本当の水晶体に近い働きをします。白内障の進歩とともに眼内レンズも様々な付加価値がある製品が開発され、見え方の質が向上しています。現在、眼内レンズの種類にはピントが一つの「単焦点眼内レンズ」と、ピントが複数ある「二重焦点(遠近両用)眼内レンズ」の2種類があります。



☆たんしょうてんがんない**単焦点眼内レンズ**にはピントを合わせる調節力がありません。遠方にピントを合わず眼内レンズを使用すると手元を見る時には眼鏡が必要です。

逆に手元にピントを合わせると遠方を見る眼鏡が必要です。手術の前に生活スタイルにあったピントを決める必要があります。これらの問題を解決するため、近年、二重焦点(遠近両用)眼内レンズが開発されました。

☆にじゅうしょうてん えんきんりょうよう がんない二重焦点(遠近両用)眼内レンズは単焦点眼内レンズと異なり、近くと遠くの両方にピントを合わせることができます。近くの携帯電話・読書・化粧や、遠くの時計・風景にもピントが合うようになります。ただし自由にピントを変えることが出来る若い頃の見え方とは異なりますので、見にくいと感じる時には、眼鏡を装用したほうが楽に感じる場合もあります。眼鏡をかけたり、外したりする煩わしさから出来るだけ解放され、活動的な生活を送りたい方に向いていると言えます。一方、単焦点眼内レンズに比べ、暗い場所(夜間)では光を眩しく感じたり、ぼやけて見える事が起こりやすくなります。夜間の運転や作業の多い方、仕事や趣味で良い視力・鮮明に見える視力が必要な方には向いていません。二重焦点(遠近両用)眼内レンズを希望されても、眼の状態の診断結果によって御希望に沿えない場合もあります。

二重焦点(遠近両用)眼内レンズは厚生労働省で認可されました。しかし健康保険は対象外です。保険診療と自費診療の混合診療は認められていませんので、眼内レンズのみならず、手術費用・診察・検査・治療(手術後3ヶ月の診察・検査含む)全ての費用は「自費」となります。

二重焦点(遠近両用)眼内レンズを御希望の方は当院スタッフまでお問い合わせください。費用の点も含め、より詳細に御説明させていただきます(またご興味のある方にはビデオ「白内障手術と眼内レンズ」(約10分)もご鑑賞していただけます)。

近視矯正手術 LASIK 無料説明会のお知らせ

当院では毎月(第一土曜日)近視矯正手術 LASIK の無料説明会を実施しております。屈折矯正外来スタッフが一緒に、ビデオや資料を見ながら手術についてお話し致します。ご家族やご友人と御参加ください。西眼科病院5階にて(所用時間/約30分)

8月1日(土)11:00am~
9月5日(土)11:00am~
10月3日(土)11:00am~

薬受付専用電話の廃止

回線廃止にともない
フリーダイヤル「薬受付専用電話」
での薬の依頼が
ご利用いただけなくなります。
御了承くださいますよう
よろしくお願い申し上げます。